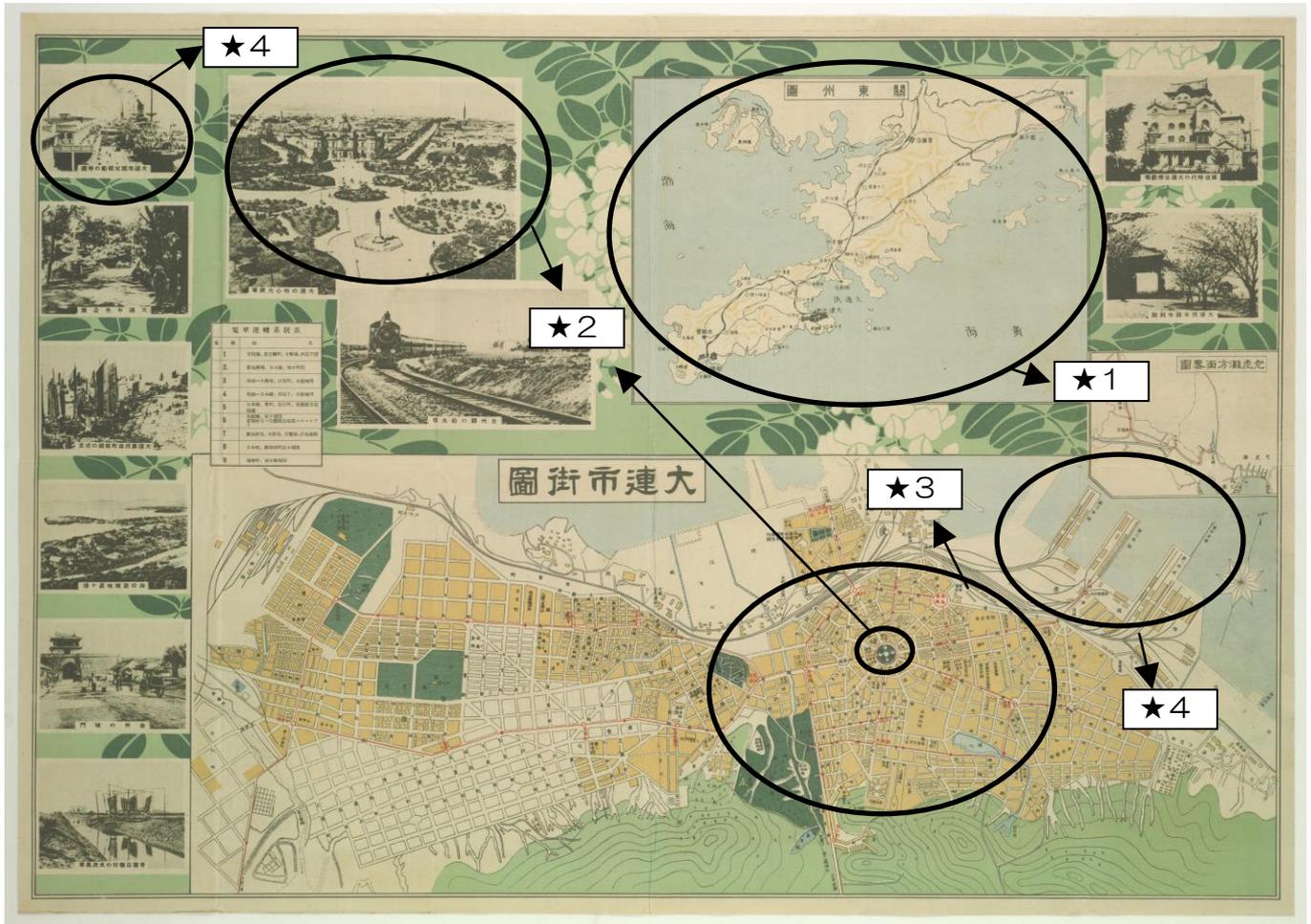


授業で使える当館所蔵地図

No. 76 『(外)大連地方案内』
 作成年：1927(昭和2)年
 サイズ：38×53cm
 作者：南満州鉄道株式会社(編・発行)



【解説】

当時の日本の領土は、本土、租借地、委任統治区域、一部統治区域、一時的統治区域などと区別されていたが、大きく「内地」(本土)と「外地」(本土以外)に分かれていた。1905年(明治38年)に結ばれた日露戦争の講話条約であるポーツマス条約によって日本の租借地となったのが、遼東(リャオトン)半島(関東州)である。関東州には、軍港としての旅順、商業港としての大連があり、日本の大陸進出の拠点として発展を遂げた。本資料には、昭和初期の大連の市街地が、名所の写真とともに紹介されており、当時の日本の租借地の実態を知る上で、大変興味深い資料といえる。

★1 関東州図と南満州鉄道

関東州は、日露戦争後、日本の大陸進出の拠点となった地域である。地図中には、関東庁が置かれた旅順や、南満州鉄道株式会社の本社が置かれた大連との位置関係が分かる。また、各都市が鉄道で結ばれていたことも知ることができる。

南満州鉄道株式会社(満鉄)について地図中に「満鉄本社」、「満鉄病院」「満鉄資源館・地質研究所」「(満鉄)中央試験所」「満鉄野球場」等、多くの関連施設を見つけることができる。また、本資料の発行も同会社が行っていることから、大連市の発展に大きな影響を持っていたことも推測することができる。



★2 大連中山広場(だいにんちゅうさんひろば)

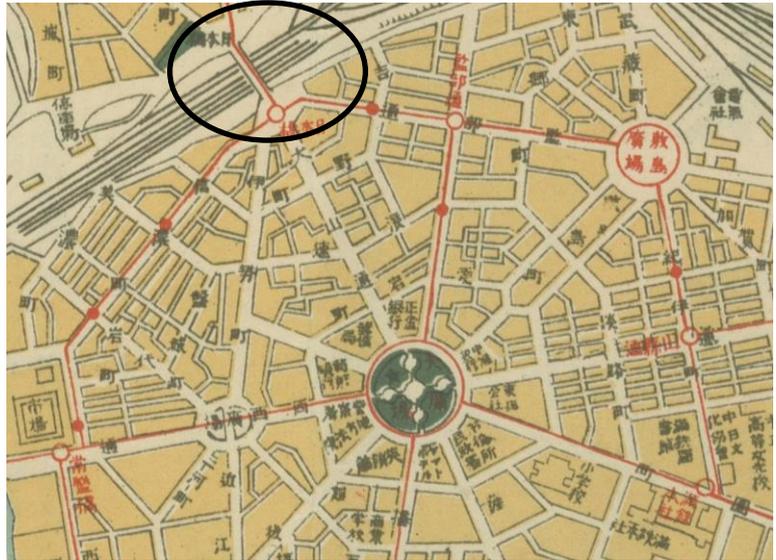
現在も大連の中心的な広場であり、直径213メートルの円形を呈している。中山広場は帝政ロシアが統治する時期に建設され、ニコライエフスカヤ広場と命名された。日本統治時代には、大広場と改名されている。(地図上の表記は大廣場)1908年～1935年まで日本人などの建築家の設計により、広場の周辺に10基のルネッサンス様式やゴシック様式の建築物が建てられた。

★3 大連市の地名

大連市街地には「美濃町」「信濃町」「伊勢町」「駿河町」「近江町」「紀伊町」「伏見町」「播磨町」「淡路町」など、日本の地名に由来する名称を多く見つけることができる。

「大山通」「山縣通」や「東郷町」「乃木町」「寺内町」という名称は、当時の軍人の名前に由来すると考えられる。また、大連駅の近くにあった高架橋を、1907（明治40）年に、造り直し、「日本橋」と命名したという記録が残っている。

市街地の中には、学校、病院、銀行、警察署、銀行、市場、劇場、寺院、神社などを確認することができる。小・中学校の数から見ても、大連市には多くの人々が生活し、本土からの移民も多かったことも推測される。



★4 大連の港

市の北部に港湾施設があり、3つの埠頭が見える。後に描かれた当館所蔵「大連市街図」にはさらに西側に、第四埠頭が建設されている。埠頭から内陸部に向けて鉄道が走っており、日本本土と満州をつなぐ中継地としての港の役割をとらえることができる。

左側の写真には、大連埠頭定期船が掲載されており、汽船が内地と外地の人を運ぶ交通手段であったことも読み取れる。

【用語について】

・租借地

租借地（そしゃくち）とは、ある国が条約で一定期間、他国に貸し与えた土地のこと。租借期間中は、貸した国には潜在的な主権が存在するが、実質的な統治権は借りた国が持つ。立法・行政・司法権は借りた国に移る。

・関東庁

日本が支配していた関東州の統治機関。1919（大正8）年、関東都督府を廃した後、旅順に設置され、関東州の行政を担当した。1934（昭和9）年、関東州庁と改められた。

【利用の例】

○日清戦争後の遼東（リャオトン、りょうとう）半島を巡る日本とロシアの対立を理解できる。

→ 中国大陸における遼東半島の位置や都市（大連・旅順）の位置が分かる。

→ なぜ、ロシアがドイツやフランスとともに、日本が獲得した遼東半島を清に返還するように勧告（三国干渉）したのかを、大連の地理的特色（天然の良港、不凍港、商業港、交通網）などから考えることができる。

→ 1898年、ロシアが日本の返還した遼東半島にある旅順と大連を租借し、開発を進めていった痕跡を見ることができる。（露西亞町、露治時代の大連支那劇場、大連中山広場等）

○日露戦争後（明治時代の終わり）の日本の中国支配の様子と、大陸進出の拠点としての役割を理解できる。

→ 大連にあったさまざまな施設から、当時の人々の暮らしを想像することができる。

→ 日本が大連に本社を置く半官半民の南満州鉄道株式会社（満鉄）を設立し、鉄道を中心に、炭鉱や製鉄所の経営を進め、満州での利権を独占していった様子を読み解くことができる。

→ 大連を事例として、1945（昭和20）年の日本の敗戦まで続いた日本の植民地・租借地での日本人の生活様式について考えを巡らすことができる。

【当館所蔵関連地図】

・「大連市街図」…掲載したものより、後に制作されており、比較すると特に南西部の開発が進んでいる。

・「最新大連市街全図」…関東州周辺の水産資源や、海水浴場、ゴルフ場等の娯楽施設等も掲載されている。